

# 韓国人留学生はアルバイトを通して日本をどう理解しているか

安 龍洙\*

(2020年10月28日受理)

## How do Korean Students See Japan through their Part-time Jobs?

Yong Su AN\*

(Received October 28, 2020)

### 要旨

本稿で韓国人留学生を対象に日本でのアルバイトを通して日本社会をどのように理解したのかについて探った。その結果、以下のことが示された。(1) 仕事のマニュアルに好印象を持っているが、日本人は周りの雰囲気を重視し上司の指示通りに仕事をすると考えている。(2) シフト制に対してはポジティブな評価をしているが、仕事が遅いことに対してはネガティブな評価をしている。(3) アルバイトに関する連想イメージはすべて実体験に基づいているが、マスメディア、インターネット、他人から聞いた話が混合したものもみられる。また、韓国人留学生の共通イメージとして、(1) アルバイトの仕事が大変、(2) 日本は客に対するサービスがいい、(3) 日本人は他人のプライベートなことには関わらない、(4) 日本は仕事の際にマニュアルを重視する、(5) 日本では仕事をするに当たって十分な説明がなされている、(6) 日本の店は清潔でよく整理整頓されている、(7) 日本人は(韓国人に比べて) 法律をよく守る、など先行研究の結果と一致する部分が多いことがわかった。さらに、来日前後の変化については、清潔な店、ユニフォーム、徹底的に規則を守る日本人、ハードな仕事、シフト制は来日後に新しく生まれたイメージであることがわかった。

【キーワード】 韓国人留学生、アルバイト、PAC 分析、異文化理解

### 1. はじめに

本研究は、外国人と日本人がお互いをどのように理解し評価しているのかについて、個人別態度構造分析 (Analysis of Personal Attitude Construct : PAC 分析) を用いて探る一連の研究の一部である。

これまで、様々な視点から外国人、日本人双方の相互理解について PAC 分析を用いて検討した

---

\*茨城大学全学教育機構 (〒310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan)

がここでは代表的な先行研究を紹介する。外国人の日本に対する理解についての先行研究として、まず、対日観に関する研究（安 2015a, 2012, 2011, 2010a, 2010b, 2009, 2008a）が挙げられる。その結果、伝統を重んじる日本人、融通の利かない日本人、技術が発展している日本、ビジネスで親切的日本人、自己主張をしない日本人、時間に正確な日本人、個人主義の日本人、仲良くなりにくい日本人、閉鎖的な日本人、他人と積極的に関わるのを嫌う日本人、政治に無関心な日本人などの結果が示された。

対日観の変化に関する研究（安 2016a, 2015b, 2013a, 2013b, 2008b, 安・アンドレエフ 2014）では、来日後にプラスイメージが強くなったケース（例：日本人の他人への配慮、礼儀を重んじる日本人）、来日後にマイナスイメージが弱くなったケース（例：決められた枠の中で生活する日本人、日本人の本音と建前、消極的な日本人、外面的なことを重視する日本社会）、来日後にマイナスイメージが無くなったケース（例：ヨーロッパに対する憧れ、本心が分からない日本人）、などの変化がみられた。

留学生の日本留学観に関する研究（青木・安 2019, 安 2018a, 2016b）においては、物価が高いため、留学生生活が大変な日本、外国人に無関心な日本の大学生、留学中に知り合った母国以外の留学生との交流を通して日本以外の国にも興味を持つようになったこと、安全で暮らしやすい日本、外国人が困った時には助けてくれる日本人、先輩後輩の上下関係が厳しい特異な日本文化、アメリカ人に友好的な日本人、などの留学観が示された。

留学生の日本留学観の変化に関する研究（安 2018b, 2014）では、来日前に抱いていた留学に対する不安が解消されることがわかった。来日前のイメージが来日後に弱くなるケース（例：自然災害）、来日前のイメージが来日後に具体化されるケース（例：日本の先進文化）、来日後にマイナスイメージが解消されるケース（例：日本の個人主義）、来日前のイメージが来日後に強くなるケース（例：先進国の日本）などの留学観の変化が表れた。

日本社会の異文化理解に関する研究（青木・安 2018, 安 2019, 石鍋・安 2018, 松田・安 2018）では、ルール・規則を守り規範意識の高い日本人、親切的日本人、他人に配慮する日本人、個人主義の日本などの結果が得られた。

外国人の日本サブカルチャー観に関する研究（安 2020, 石鍋・安 2019, 松田・安 2019）においては、日本のアニメ・漫画のイメージが強く、日本サブカルチャーに対してポジティブなイメージを有することがわかった。また、外国人は日本サブカルチャーについて、ユニークな若者文化、多種多様なサブカルチャーがあると捉えていることがわかった。

以上のように、これまでの研究で、幅広い観点から外国人の日本社会に対する異文化観を検討してきている。本研究ではこれらの先行研究の結果を踏まえながら、「日本でのアルバイト」に焦点を当てて、外国人留学生の異文化観を探る。具体的には、留学中にアルバイト経験を持つ韓国入交換留学を対象に、帰国直前に PAC 分析を実施し、日本で外国人が働くことや日本人と一緒に働くことについてどのように理解しているのかを分析し、彼らの異文化観を探る。

## 2. 調査方法

日本国内の大学で交換留学中の韓国人3名を対象に日本でのアルバイトに関する PAC 分析を実施した。本研究への協力に当たり、研究の目的、研究協力の任意性、匿名化によるプライバシーの保護、協力同意撤回の自由について文書および口頭で説明し同意を得た。被調査者が特定されることを回避するため、出身地域、性別、年齢等が推測されうる箇所は削除、伏せ字、あるいは記号と

した。

調査は第1部の質問紙調査と第2部のEメールによる調査から成っている。第1部の質問紙調査では、以下の刺激を与えイメージ項目を質問紙に記入するよう教示した。

**【刺激文】**あなたが日本でアルバイトをしながら感じたことについて聞きます。日本で外国人が働くことや日本人と一緒に働くことについて、どんなイメージが思い浮かびますか？思い浮かんだイメージを「単語（例：雨、雪）、または短い文（例：雨が多い、雪が降らない）」で10個以上記入してください。

被調査者が記入した連想イメージを重要と思われる順序に並べるよう教示した。次に、各順位のイメージ項目の組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのか7段階尺度で評定するよう教示した。評定結果に対し被調査者ごと個別にクラスター分析を実施した。その後、クラスター分析の結果に対する被調査者自身の解釈を求めた。最後に連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は(+)、マイナスイメージの場合は(-)、どちらともいえない場合は(0)を記入するよう教示した。

第2部のEメールによる調査では、クラスター分析の結果を被調査者に提示し確認を取った。その後、被調査者に、1)各クラスター及びクラスター全体の解釈、2)各イメージ項目に対してそのイメージを抱くようになった切っ掛けについて質問紙に記入してもらった。調査は、2019年2月に韓国語で実施した。

### 3. 結果

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し被調査者自身の解釈について述べる。

#### 3.1. 被調査者 A

図1は被調査者A（以下、「A」とする）のデンドログラムで、表1はAのイメージ形成の切っ掛けである。

クラスター1は『1)お客様は神様(上下関係)(0)』『3)マニュアルに従った仕事(+)]の2項目でクラスター名は「お客様第一主義の日本」とした。クラスター1についてAは「留学前にも日

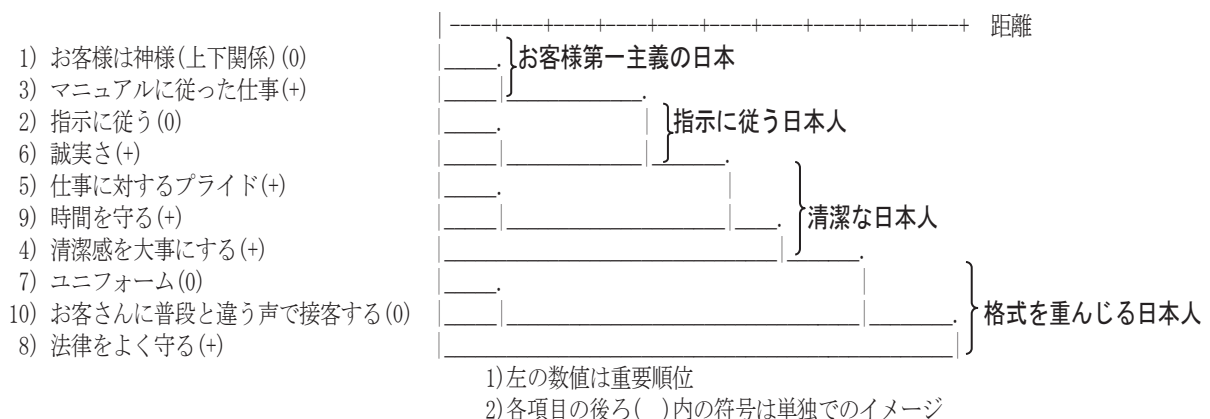


図1 Aのデンドログラム

本の店は大変親切で客を大事にするというイメージがあった。韓国も『お客様は王様』という言葉はあるが、日本のほうがその傾向が強いと思う。日本は学生アルバイトも一人の労働者だ。韓国のコンビニでアルバイトをしている人は客がいない時、スマホを見たりレポートを書いたりしていると聞いたが、日本は休憩時間以外に自由時間がない。また、日本では仕事を始める前に仕事のやり方や安全対策についてビデオを3時間ほど視聴させるなど、マニュアルを非常に重視している。」と解釈した。来日前後の変化<sup>(1)</sup>について「韓国でネットやテレビで、日本はマニュアルを厳しく守り、客と従業員の間関係が厳しいということを知ったから変化はない。」と回答した。

クラスター2は『2) 指示に従う(0)』『6) 誠実さ(+)]の2項目でクラスター名は「指示に従う日本人」とした。クラスター2についてAは「韓国でアルバイトをしたことがないから韓国のことはわからないが、日本人はオーナーや店長に言われた通りに動くし、言われたことをすぐにやる。日本の国民性なのか、日本文化なのかはわからないが、日本人は指示通りに仕事をする。日本人の誠実さと指示通りに仕事をすることは似ている。日本人は特に仕事がなくとも何かをやっているから勤勉に見える。また、皆が空気を読んでそのように行動する。」と解釈した。来日前後の変化について「日本人は勤勉だと思ったが、勤勉というより他人に気を遣い何かをしながら時間をつぶしていると思えるようになった。」と回答した。

クラスター3は『5) 仕事に対するプライド(+)]『9) 時間を守る(+)]『4) 清潔感を大事にする(+)]の3項目でクラスター名は「清潔な日本人」とした。クラスター3についてAは「アルバイト先の日本人に、店長とオーナーがいないのに何でそんなに頑張って仕事するのか、客がいない時、スマホを見たり、少し休んだりしてもいいのでは、と聞いたことがある。すると、その日本人はお金をもらっているし、仕事をさぼると引け目を感じると言っていた。『9) 時間を守る(+)]は、日本でアルバイトをしてみて本当にそうだと感じた。また、日本人は規則をよく守り、清潔だと思った。例えば、トイレの掃除を4時間ごとにやることだ。店内の掃除も1日に2、3回はやるし、後片付けや手洗いの後、FF商品(弁当、サンドイッチ、調理パンなど)を扱う時は必ず手をアルコール消毒する。」と解釈した。来日前後の変化について「日本人はこれほど清潔だとは思わなかった。アルコール消毒をよくして、客に見えないところまで清潔にすることは来日前は知らなかったから驚いた。アルバイトを約5か月間同じところでして、時間に遅れる人は本当に数えるほどしかいなかったからそう思った。日本人は責任感が強いと感じた。また、交代する人のために時間に遅れないように心掛けていていると感じる。」と回答した。

クラスター4は『7) ユニフォーム(0)』『10) お客さんに普段と違う声で接客する(0)』『8) 法律をよく守る(+)]の3項目でクラスター名は「格式を重んじる日本人」とした。クラスター4についてAは「ユニフォームはアルバイト先だけでなく、日常でもよく着るもので、日本人は身なりを整えてから仕事に臨むという印象を強く受けた。また、飲食店では髪の毛が食べ物に入らないようにタオルを頭に巻くのが印象的だった。日本人の9割以上が接客する時は普段より高い声で話すが、それは客に優しく接しようとするためだと思う。『8) 法律をよく守る(+)]は、アルバイト先でのことだが、高校生は10時以降の労働が禁止されていて、それをきちんと守っているからそう思った。また、留学生の資格外活動もきちんと守る。」と解釈した。来日前後の変化について「『7) ユニフォーム(0)』は韓国にいた時はそのイメージがなかったが日本に来て強く感じるようになった。日本はサービス業が発達している国だと思っていたから接客に対するイメージに変化はない。『8) 法律をよく守る(+)]は、日本人は私から見れば守らなくてもいいようなルールまできちんと守っていたから驚いた。韓国では取り締まりにひっかからない場合は法律を守らない人もいると聞

いたから、日本もそうだろうと思っていた。」と回答した。

全体については「日本人は誠実で規則を守って仕事をする。サービス業はサービスの質が非常に高い。」と解釈した。

表1 Aのイメージ形成の切っ掛け

クラスター1：お客様第一主義の日本	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
1) お客様は神様（上下関係）(0)	いろいろなマスメディアとアルバイトの経験から
3) マニュアルに従った仕事(+)	アルバイトの経験から
クラスター2：指示に従う日本人	
2) 指示に従う(0)	アルバイトの経験から
6) 誠実さ(+)	インターネットで知った日本に関するイメージとアルバイトの経験から
クラスター3：清潔な日本人	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
5) 仕事に対するプライド(+)	アルバイトの経験から
9) 時間を守る(+)	アルバイトの経験から
4) 清潔感を大事にする(+)	アルバイトの経験から
クラスター4：格式を重んじる日本人	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
7) ユニフォーム(0)	数年前に日本に旅行した時の印象とアルバイトの経験から
10) お客様に普段と違う声で接客する(0)	数年前に日本に旅行した時の印象とアルバイトの経験から
8) 法律をよく守る(+)	アルバイトの経験から

### 3.2. 被調査者 B

図2は被調査者B（以下、「B」とする）のデンドログラムで、表2はBのイメージ形成の切っ掛けである。

クラスター1は『1) きびしい(-)』『10) 休憩時間が必要(-)』『3) 難しい(-)』の3項目でクラスター名は「仕事に厳しい日本」とした。クラスター1についてBは「日本は韓国に比べて仕事に厳しい。日本は隣国だから韓国と似ていると思ったが違う点が多かった。日本は韓国より休憩時間が短く、時間も決まっているから厳しいと感じた。韓国で飲み屋と宅配便の仕分けのアルバイトをした時は

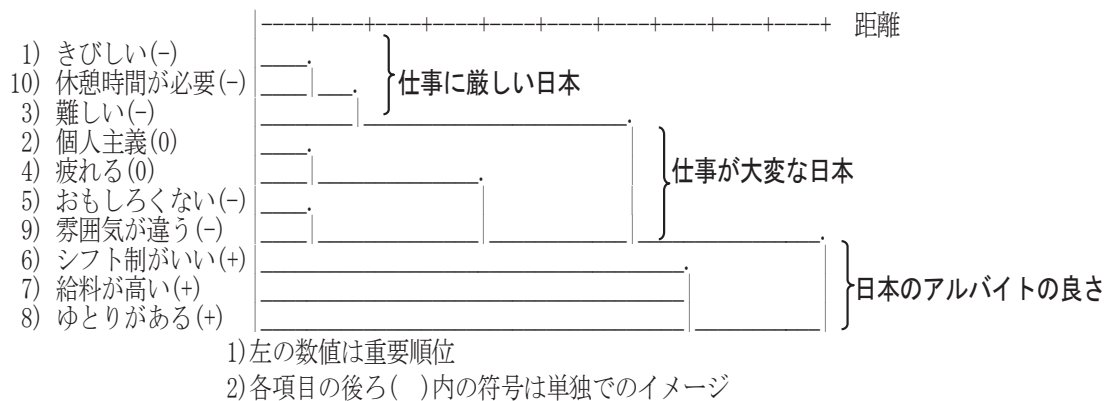


図2 Bのデンドログラム



4時間おきに休みを取っていたが、日本のスーパーは6時間おきに休みを取っていた。また、店がアルバイトに色々な仕事をさせていると感じた。」と解釈した。来日前後の変化について「日本は隣国だからアルバイト環境が似ていると思っていたが全然違った。日本が韓国より仕事は何倍もきつかった。」と回答した。

クラスター2は『2) 個人主義 (0)』『4) 疲れる (0)』『5) おもしろくない (-)』『9) 雰囲気が違う (-)』の4項目でクラスター名は「仕事が大変な日本」とした。クラスター2についてBは「『2) 個人主義 (0)』は韓国で聞いたことだ。韓国はチームで動くが、日本は仕事が忙しくても他人が手伝ってくれない。日本は勉強も仕事も韓国より疲れる。また、仕事をする時にあまり会話をしないから楽しくなかった。アルバイトは韓国より大変だと感じた。」と解釈した。来日前後の変化について「韓国より仕事がきつく大変だと思った。」と回答した。

クラスター3は『6) シフト制がいい (+)』『7) 給料が高い (+)』『8) ゆとりがある (+)』の3項目でクラスター名は「日本のアルバイトの良さ」とした。クラスター3についてBは「韓国に比べて楽なこともあれば大変なこともある。例えば、シフト制は韓国よりいい。韓国は仕事のスケジュールを店長が決めるが、日本は自分で決めるため、仕事はきつくても時間的に余裕がある。韓国は最低賃金以下の給料が支払われることもあるが、円高で韓国より時給で1000ウォン～2000ウォンくらい高かった。」と解釈した。来日前後の変化について「韓国と違って、自分がやりたい時にアルバイトができる点は日本のほうがよかった。」と回答した。

全体についてBは「日本は、仕事はきつくてもいい点もある。物事にはいい点もあれば、悪い点もあるのは当然だ。韓国は、仕事は楽だが自分がやりたい時間を選べない。しかし、日本は仕事はきつくてもアルバイトの時間を自分で決められる。」と解釈した。

表2 Bのイメージとイメージ形成の切っ掛け

クラスター1：仕事に厳しい日本	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
1) きびしい (-)	アルバイトの経験から
10) 休憩時間が必要 (-)	アルバイトの経験から (韓国と日本)
3) 難しい (-)	アルバイトの経験から
クラスター2：仕事が大変な日本	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
2) 個人主義 (0)	韓国で聞いた話とアルバイトの経験から
4) 疲れる (0)	勉強も同じで疲れると経験したから
5) おもしろくない (-)	アルバイトの経験から
9) 雰囲気が違う (-)	アルバイトの経験から
クラスター3：日本のアルバイトの良さ	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
6) シフト制がいい (+)	アルバイトの経験から
7) 給料が高い (+)	アルバイトの経験から
8) ゆとりがある (+)	アルバイトの経験から

### 3.3. 被調査者 C

図3は被調査者C（以下、「C」とする）のデンドログラムで、表3はイメージ形成の切っ掛けである。

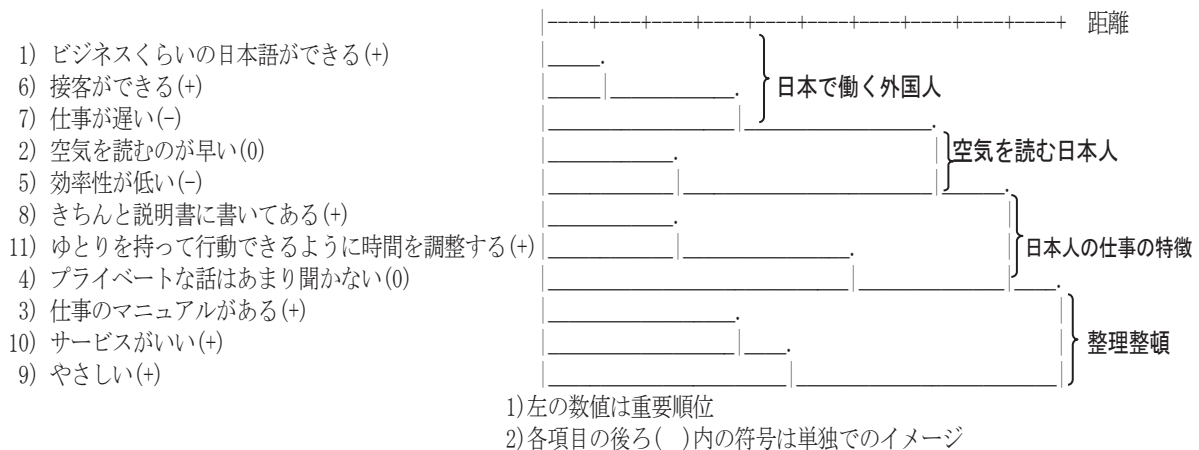


図3 Cのデンドログラム

表3 Cのイメージ形成の切っ掛け

クラスター1：日本で働く外国人	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
1) ビジネスくらいの日本語ができる(+)	アルバイトをしてみても
6) 接客ができる(+)	アルバイトをしてみても
7) 仕事が遅い(-)	仕事を体験してみても
クラスター2：空気を読む日本人	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
2) 空気を読むのが早い(0)	そう感じたから
5) 効率性が低い(-)	アルバイトの経験から
クラスター3：日本人の仕事の特徴	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
8) きちんと説明書に書いてある(+)	実際に見て
11) ゆとりを持って行動できるように時間を調整する(+)	自分の経験と他の留学生から聞いた話
4) プライベートな話はあまり聞かない(0)	自分の経験と他の留学生から聞いた話
クラスター4：整理整頓	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
3) 仕事のマニュアルがある(+)	経験
10) サービスがいい(+)	そう感じている
9) やさしい(+)	日本人と話してみても

クラスター1は『1) ビジネスくらいの日本語ができる(+)]『6) 接客ができる(+)]『7) 仕事が遅い(-)]の3項目でクラスター名は「日本で働く外国人」とした。クラスター1についてCは「日本語ができるからアルバイトができるというイメージだ。日本語ができるとどんな仕事でもできるというイメージだ。日本はアルバイト先をはじめ、銀行など多くのところで仕事が遅いと感じる。」と解釈した。来日前後の変化については「ない」と回答した。

クラスター2は『2) 空気を読むのが早い(0)]『5) 効率性が低い(-)]の2項目でクラスター名は「空気を読む日本人」とした。クラスター2についてCは「日本語ができないから他人がやっていることを真似してやったり、職場の雰囲気をしながら仕事をしたりするため、効率が落ちる。また、マニュアル通りにやろうとするから仕事が遅くなると感じる。日本人は場の空気を読むのが早

いが、日本ではそれがとても重要だと思う。」と解釈した。来日前後の変化については「ない」と回答した。

クラスター3は『8)きちんと説明書に書いてある(+)]『11)ゆとりを持って行動できるように時間を調整する(+)]『4)プライベートな話はあまり聞かない(0)]の3項目でクラスター名は「日本人の仕事の特徴」とした。クラスター3についてCは「クラスター3は日本人らしさが出ていと思う。他人の個人的な問題には関わらないし、仕事とプライベートをはっきり線引きする。また、他の人が同じ仕事をする時に困らないように、十分な説明がなされている。」と解釈した。来日前後の変化について「ない」と回答した。

クラスター4は『3)仕事のマニュアルがある(+)]『10)サービスがいい(+)]『9)やさしい(+)]の3項目でクラスター名は「整理整頓」とした。クラスター4についてCは「アルバイト先の環境と日本人のスタッフに関するイメージだが、日本の店はよく整理整頓できていて、親切でサービスがいいと感じる。実際にアルバイトをしてみて、接客なら接客のマニュアルが、レジ打ちならレジ打ちのマニュアルが存在する。また、他のところでアルバイトをしている留学生からも同じ話を聞いたが、日本ではゆとりを持って行動ができるように、予めアルバイトの時間を調整する。」と解釈した。来日前後の変化について「ない」と回答した。

全体についてCは「日本でアルバイトをする外国人が思い浮かぶ」と解釈した。

#### 4. まとめ

ここでは、被調査者3名のアルバイトを通して日本をどのように理解しているのかについてまとめる。

##### 4.1. 全体の特徴

###### (1) 重要イメージに見られる特徴

ここでは、重要イメージに見られる特徴を探るために、被調査者3名が日本でのアルバイトをイメージする上で重要と判断した1位から3位までのイメージ項目を取り上げる。Aは、『1)お客様は神様(上下関係)(0)]『2)指示に従う(0)]『3)マニュアルに従った仕事(+)]、Bは『1)きびしい(-)]『2)個人主義(0)]『3)難しい(-)]、Cは『1)ビジネスくらいの日本語ができる(+)]『2)空気を読むのが早い(0)]『3)仕事のマニュアルがある(+)]をそれぞれ重要イメージとして挙げている。特徴として、Aの『3)マニュアルに従った仕事(+)]、Cの『3)仕事のマニュアルがある(+)]からというように、マニュアルに対して好印象を持っていることがわかる。また、Aの『2)指示に従う(0)]とCの『2)空気を読むのが早い(0)]からは、日本人は自分の判断で仕事をするより周りの状況や上司の指示で仕事をしており、それが日本では重要だと理解しているようだ。

###### (2) プラスイメージとマイナスイメージに見られる特徴

ここでは3名のプラスイメージとマイナスイメージの項目を取り上げ、それぞれの特徴を探る。まず、プラスイメージの項目は、Aは『3)マニュアルに従った仕事(+)]『6)誠実さ(+)]『5)仕事に対するプライド(+)]『9)時間を守る(+)]『4)清潔感を大事にする(+)]『8)法律をよく守る(+)]、Bは『6)シフト制がいい(+)]『7)給料が高い(+)]『8)ゆとりがある(+)]、Cは『1)ビジネスくらいの日本語ができる(+)]『6)接客ができる(+)]『8)きちんと説明書に書いてある(+)]『11)ゆとりを持って行動できるように時間を調整する(+)]『3)仕事のマニュアルがある(+)]『10)サービスがいい(+)]『9)やさしい(+)]である。プラスイメージの特徴として、Aの『3)マニュアルに従った



仕事 (+)』、C の『3) 仕事のマニュアルがある (+)』のように、マニュアルに対して肯定的に評価していることがわかる。また、A の『9) 時間を守る (+)』B の『6) シフト制がいい (+)』『8) ゆとりがある (+)』、C の『11) ゆとりを持って行動できるように時間を調整する (+)』のように、余裕をもって仕事をすることや、仕事しやすいように前もって時間調整をすることにいい評価をしている。次に、マイナスイメージの項目は、A は該当する項目がなく、B は『1) きびしい (-)』『10) 休憩時間が必要 (-)』『3) 難しい (-)』『5) おもしろくない (-)』『9) 雰囲気が違う (-)』、C は『7) 仕事が遅い (-)』『5) 効率性が低い (-)』のように、仕事が遅いことに対してはマイナス評価をしている。しかし、先行研究の安 (2015b) の韓国人は「日本人を見て『ゆっくりだが確実に』という言葉を実感した」とプラス評価をしており、評価が分かれる。

### (3) イメージ形成の切っ掛け

各被調査者にイメージ形成の切っ掛けについて尋ねたところ、表 1～表 3 の通り、すべてのイメージ項目が実体験に基づくものであると回答した。また、A の『7) ユニフォーム (0)』(数年前に日本に旅行した時の印象とアルバイトの経験から) のように、複数の体験に基づくものもある。さらに、A の『1) お客様は神様 (上下関係) (0)』(いろいろなマスメディアとアルバイトの経験から) 『6) 誠実さ (+)』(インターネットで知った日本に関するイメージとアルバイトの経験から) のように、実体験とマスメディア、インターネットで知った知識が混合したものや、B の『2) 個人主義 (0)』(韓国で聞いた話とアルバイトの経験から)、C の『11) ゆとりを持って行動できるように時間を調整する (+)』(自分の経験と他の留学生から聞いた話) のように実体験と他人から聞いた話が混合したものがあることがわかった。このように、すべてのイメージ項目が実体験に基づいているがマスメディア、インターネット、ソーシャルメディア、他人から聞いた話、実体験が混合したものも少なくなく、イメージ形成に様々なものが影響していると考えられる。

### (4) 来日前後のアルバイト観の変化

来日前後のアルバイト観の変化については、A の客に見えないところまで清潔にする日本の店、他人のために時間を守る日本人、仕事の時にユニフォームを着る日本人、ルールをきちんと守る日本人、B の仕事が大変だと感じる点、自分がやりたい時にアルバイトができる点、が示された。つまり、①清潔な店、②ユニフォーム、③規則を守る日本人、④アルバイトがハードである、⑤シフト制の良さ、などは来日後に新しく生まれたイメージである。

## 4.2. 韓国人の共通イメージについて

被調査者の 2 名以上が共通したイメージを示した内容を取り上げ、韓国人留学生がアルバイトを通して日本社会や日本人の仕事観をどのように理解しているのかについて検討する。

### (1) アルバイトはハードな仕事である

A のクラスター 1 「…日本は学生アルバイトも一人の労働者だ…日本は休憩時間以外に自由時間がない…」の解釈、B の『1) きびしい (-)』『10) 休憩時間が必要 (-)』『3) 難しい (-)』『4) 疲れる (0)』、クラスター 1 「日本は韓国に比べて仕事に厳しい。…日本は韓国より休憩時間が短く、時間も決まっているから厳しいと感じた。…アルバイトに色々な仕事をさせていると感じた。」の解釈、クラスター 2 「…日本は仕事が忙しくても他人が手伝ってくれない。日本は勉強も仕事も韓国より疲れる。また、仕事をする時にあまり会話をしないから楽しくなかった。アルバイトは韓国より大変だと感じた。」の解釈から、A、B は日本でのアルバイトがハードな仕事であると感じたようだ。日本人は仕事に厳しいという見方は安 (2020) にも同様の結果が得られている。

## (2) サービスがよくて親切的な日本人

A の『10) お客さんに普段と違う声で接客する (0)』、クラスター 1「留学前にも日本の店は大変親切で客を大事にするというイメージがあった。韓国も『お客様は王様』という言葉はあるが、日本のほうがその傾向が強いと思う…』、C の『10) サービスがいい (+)』、クラスター 4「…日本の店はよく整理整頓できていて、親切でサービスがいいと感じる…」の解釈から、日本はサービスがいいと感じているようだ。このような親切的な日本人については先行研究（安 2019, 2016, 2015a, 2015b, 2013b, 2010a, 2010b, 2009, 2008a）の結果とも一致する。

## (3) 他人のプライベートなことには関わらない日本人

B の『2) 個人主義 (0)』、クラスター 2「…日本は仕事が忙しくても他人が手伝ってくれない…」の解釈、C の『4) プライベートな話はあまり聞かない (0)』、クラスター 3「…他人の個人的な問題には関わらないし、仕事とプライベートをはっきり線引きする…」の解釈から日本人は、他人の仕事やプライベートなことには関わらないと感じているようだ。他人と積極的に関わるのを嫌う日本人像は、韓国人（安 2015a, 2013b, 2010a, 2010b, 2008a, 2008b）、中国人（安 2013a）、マレーシア人（八若 2012）、ベトナム人（安 2011）、台湾人（藤原 2009）、インドネシア人（藤原 2012）などの結果と一致する。日本人の個人主義は、先行研究の韓国人（安 2019, 2015a, 2015b, 2014, 2013b, 2010a, 2009, 2008a, 2008b）にも表れているように、韓国人は、日本人は個人主義であると捉えている傾向が強いと考えられる。

## (4) マニュアルを重視する日本人

A の『3) マニュアルに従った仕事 (+)』、クラスター 1「…日本では仕事を始める前に仕事のやり方や安全対策についてビデオを 3 時間ほど視聴させるなど、マニュアルを非常に重視している。」の解釈、来日前後の変化における「韓国でネットやテレビで、日本はマニュアルを厳しく守り…」の解釈、C の『3) 仕事のマニュアルがある (+)』、クラスター 4「…接客なら接客のマニュアルが、レジ打ちならレジ打ちのマニュアルが存在する…」の解釈から、日本にマニュアルが存在しそれを重視すると考えており、ポジティブな評価をしていることがわかる。しかし、安（2015a）の在留期間の長い韓国人は「日本人はマニュアルにこだわり過ぎて融通が利かない」とマイナス評価をしており、評価が分かれている。

## (5) 仕事について十分な説明がなされている

A のクラスター 1「…日本では仕事を始める前に仕事のやり方や安全対策についてビデオを 3 時間ほど視聴させるなど…」の解釈、C の『8) きちんと説明書に書いてある (+)』、クラスター 3「…他の人が同じ仕事をする時に困らないように、十分な説明がなされている。」の解釈から、A、C は日本では仕事のやり方について十分に説明がなされていると感じているようだ。

## (6) 清潔でよく整理されている日本の店

A の『4) 清潔感を大事にする (+)』、クラスター 3「…日本人は規則をよく守り、清潔だと思った。例えば、トイレの掃除を 4 時間ごとにやることだ。また、店内の掃除も 1 日に 2、3 回はやるし、後片付けや手洗いの後、FF 商品（弁当、サンドイッチ、調理パンなど）を扱う時は必ず手をアルコール消毒する。」の解釈、C のクラスター 4「…日本の店はよく整理整頓できていて…」の解釈から、日本の店は清潔でよく整理されていると感じているようだ。

## (6) 韓国よりルールが守られている社会

A の『8) 法律をよく守る (+)』、クラスター 4「…アルバイト先でのことだが、高校生は 10 時以降の労働が禁止されていて、それをきちんと守っているからそう思った。また、留学生の資格外

活動もきちんと守る…日本人は私から見れば守らなくてもいいようなルールまできちんと守っていたから驚いた」の解釈、全体の解釈「日本人は誠実で規則を守って仕事をする…」の解釈、Bのクラスター3「…韓国は最低賃金以下の給料が支払われることもあるが、円高で韓国より時給で1000ウォン～2000ウォンくらい高かった。」の解釈から、日本は韓国に比べて法律、ルールが守られている社会であると感じているようだ。ルール・規則を守り規範意識の高い日本人（安2020, 2019, 2015, 2013b, 2010a, 2010b, 2009, 2008）の結果と一致する。Aの「交代する人のために時間に遅れないように心掛けている」のように時間を守る日本人については、韓国人（安2015a, 2010a, 安2009）、ベトナム人（安2011）、中国少数民族（安2012）、中国人（安2010b）、台湾人（藤原2009）にも同様の結果が得られている。特に、AとBは、韓国人は守らないような法律や規則も日本人はきちんと守っていることに強い印象を受けたようである。

## 5. おわりに

以上、本稿では日本でアルバイト経験を持つ韓国人を対象に、日本社会をどのように理解しているのかについて検討した。その結果、日本人が仕事に厳しいこと、客に対するサービスがいいこと、他人のプライベートなことには関わらない日本人、ルールが守られている社会、などは先行研究と同様の結果が得られた。マニュアルの存在に対しては好印象を持っているものの、日本人は仕事が遅く効率性が悪いと考えていることがわかった。また、ユニフォーム、アルバイトがハードであること、シフト制の良さなどは来日後に新しく生まれたイメージであることがわかった。さらに、仕事について十分な説明がなされていることやアルバイトはハードな仕事であることは本研究によって示された外国人の異文化観であることがわかった。特に、Bは韓国と日本の仕事に対する考え方の違いにかなり違和感を覚え、ネガティブな評価をしながらも、時間を守る日本人、法律を守る日本人、アルバイトのシフト制などにおいては、韓国（人）と違った日本（人）の良さであると肯定的に評価しており、両国の違いを自分なりに客観的に捉えようとしている。これは、異文化に葛藤しながらもそれを受け入れ、客観的に理解しようとする異文化受容の一側面を示すものであると考える。今後、外国人の対人トラブルや異文化不適応などに焦点を当てて、幅広い観点から異文化理解について検討していきたいと考える。

## 付記

本研究は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（課題番号17K02838）の助成を受けて行われた。

## 注

- (1) 本研究における「変化」とは、ある対象に対する被調査者自身によるイメージや態度について振り返り、それを評価したものを指す。

## 引用文献

- 青木香代子・安龍洙（2019）「中国人短期留学生の日本留学観に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』2, 13-28.  
青木香代子・安龍洙（2018）「日本社会における東南アジア出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』1, 13-28.  
安龍洙（2020）「欧米出身留学生の日本のサブカルチャー観について」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』3, 1-12.  
安龍洙（2019）「日本社会における韓国出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集

グローバル教育研究』2, 1-12.

安龍洙 (2018a) 「東欧出身短期留学生の日本留学観に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』1, 1-12.

安龍洙 (2018b) 「国費留学生の日本留学観の変化に関する一考察ー日韓プログラム14期生を対象にした4年間の追跡調査からー」『留学生交流・指導研究』20, 97-114.

安龍洙 (2016a) 「日本で就職した元韓国人留学生の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』14, 93-105.

安龍洙 (2016b) 「インドネシア人交換留学生の日本留学に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』14, 1-18.

安龍洙 (2015a) 「在日永住者の対日観に関する一考察ー韓国人ニューカマーの場合ー」『茨城大学留学生センター紀要』13, 61-73.

安龍洙 (2015b) 「日本留学経験者の韓国帰国後の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』13, 1-14.

安龍洙 (2014) 「韓国人短期留学生の日本留学観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』12, 75-88.

安龍洙 (2013a) 「外国人の対日観の変化に関する研究ー中国人留学生の来日前後の対日観を比較してー」『茨城大学留学生センター紀要』11, 1-16.

安龍洙 (2013b) 「外国人の対日観の変化に関する研究ー日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合ー」『茨城大学留学生センター紀要』11, 81-96.

安龍洙・アントン・アンドレエフ (2014) 「ブルガリア人の日本留学前後の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』12, 1-14.

安龍洙 (2012) 「外国人の対日観に関する研究ー中国の少数民族出身者の場合ー」『茨城大学留学生センター紀要』10, 1-14.

安龍洙 (2011) 「外国人の対日観に関する研究ーベトナム人留学生の場合ー」『茨城大学留学生センター紀要』9, 1-18.

安龍洙 (2010a) 「外国人の対日観に関する研究ー本滞在歴の長い韓国人の場合ー」『ユーラシア研究』7(4), 19, 373-392.

安龍洙 (2010b) 「外国人の対日観に関する研究ー中国人短期留学生の場合ー」『茨城大学留学生センター紀要』8, 1-17.

安龍洙 (2009) 「外国人の対日観に関する研究ー韓国人短期留学生の場合ー」『茨城大学留学生センター紀要』7, 1-13.

安龍洙 (2008a) 「韓国人の対日観に関する一考察ー個人別態度構造分析法 (PAC 分析法) を用いてー」『ユーラシア研究』5(3), 11, 107-125.

安龍洙 (2008b) 「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察ー個人別態度構造分析法 (PAC 分析法) を用いてー」『留学生交流・指導研究』10, 31-48.

石鍋浩・安龍洙 (2019) 「東南アジア出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか」『グローバル教育研究』2, 59-72.

石鍋浩・安龍洙 (2018) 「日本社会における英語圏交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』1, 57-68.

八若壽美子 (2012) 「マレーシア人留学生の日本・日本人イメージに関する事例研究」『茨城大学留学生センター紀要』10, 43-58.

藤原智栄美 (2012) 「インドネシア人日本語話者の対日観に関する一考察ー日本滞在時の対日イメージとその変容ー」『Jurnal Nihongo』14(2), 15-29.

藤原智栄美 (2009) 「台湾人日本語話者の対日観に関する事例研究ー個人別態度構造分析法 (PAC 分析) を用いてー」『日本学と台湾学』8, 1-23.

松田勇一・安龍洙 (2019) 「中国出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』2, 73-86.

松田勇一・安龍洙 (2018) 「日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』1, 69-84.